

字わけ

血

これは知人に実際に起きたお話です。

腎不全で透析を数年続けていた男性が腎臓移植を望んだところ、臓器提供者の選択にいろいろな制限があることが分かりました。三親等以内の家族の臓器でないとなかなか許可は下りないということで、家族や親族が何人か候補者となりました。しかし検査の結果どの人も血液の抗体反応が強くて相性が悪いということになりました。

法律的に一番許可が下りやすいのは夫婦間の臓器の移植だということで奥様がそれでも何とか出来ないかと相談した相手がインドで長年修行して帰国後ヒーラーとして数々の奇跡的結果を生み出していた方でした。かく言う私もその人のセミナーを受け、そのヒーリング方法を学んだ一人ですが、誠にもって英知と愛の化身のような方でした。「でした」と言うのはもう亡くなられたからですが、まるで胸にポッカリ大きな孔が空いたような衝撃でした。もう二年近い月日が流れましたが、今でも寂しいです。

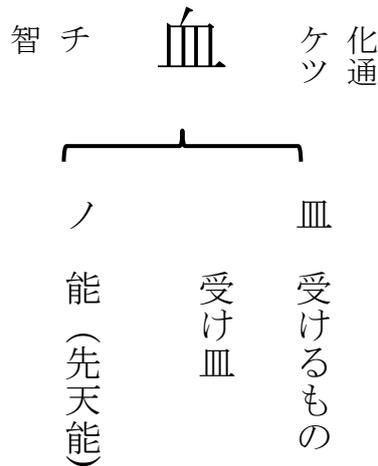
さて、その人が血液の相性が悪いのを変える方法を夫婦に教えたところ、翌月の検査でなんと相性が良いということで移植許可が出たのです。つまり一か月で状態が変わったのです。これは夫婦の体から外に取り出され、試験管の中で相手を拒絶していた血が仲良くなったということなのです。普通にはあり得ないことです。

無事に移植手術を終え、一年経た後の検査によれば二人とも一つの腎臓が最大限 70%まで機能できるという限界のその 70%働いているという結果が出たのです。ちなみに夫婦はとも仲良しです。

さて、ここで血を検証してみたいと思います。

普通血というと私たち人間の場合は「赤い血」を思い浮かべるでしょう。これは赤血球の色です。ご存知のように血液は赤血球、白血球、血小板そして血漿でできています。このうち一番量が多いのが赤血球です。それで血は赤く見えるわけです。赤血球の主な役割は酸素を体中に回していることです。酸素が回らないと当然人は死んでしまいます。人体という生命の維持をしているわけです。

それでは血を分解してみましょう。

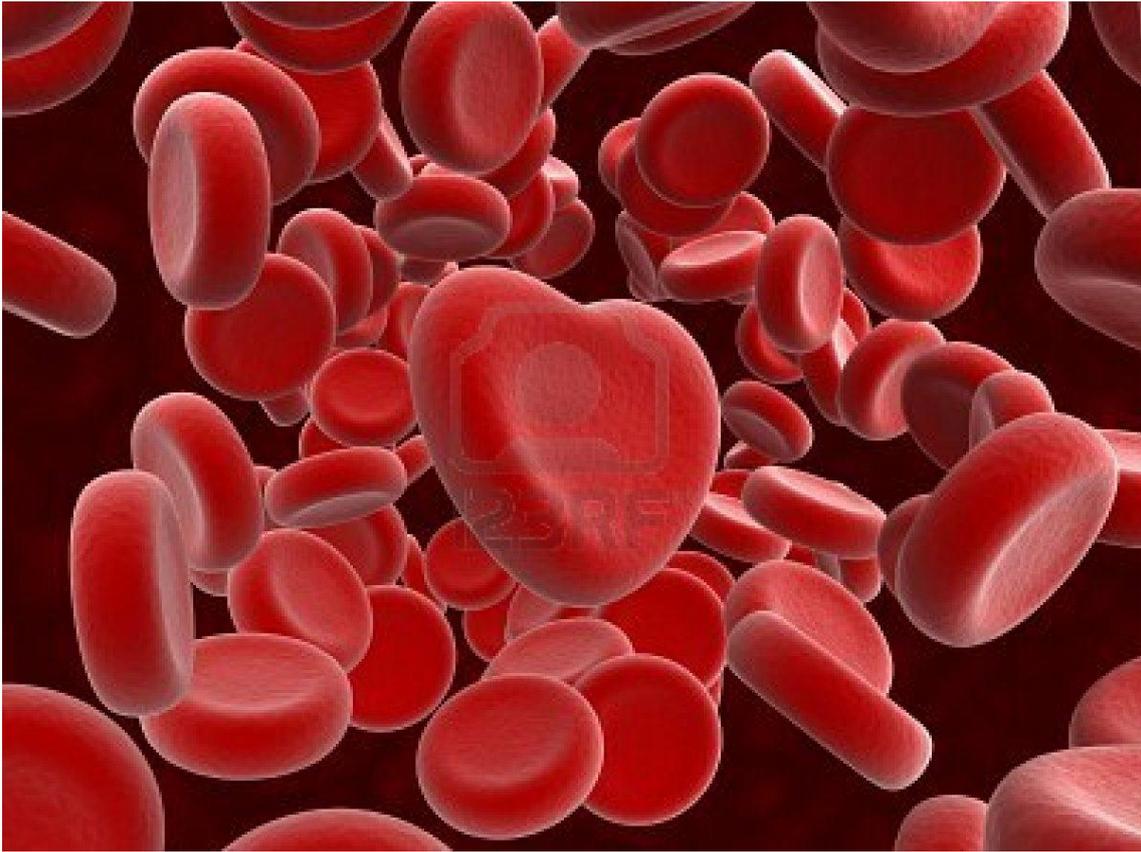


「ノ」(この仮名には命波ではまず能という字が当てられることが多い)と「皿」に分けられます。能は機能の能、つまり働きのことです。同じノでも頭に付いているノなので先天能と命波では解します。先天の働きを受けるもの。それが血であると取れます。それでは具体的には何を意味しているのでしょうか。

酸素を運び、生命維持の機能を担っているという血というものは自然の働きです。私たちが肉体という生命に宿っている間中心臓は血液を体中に循環させています。私たちは誰もこの作業に従事してはいません。眠っている間も休むことなく全部やっていたている訳です。ですから先天の働きなのです。受け皿とはとりもなおさず私たちのことです。先天の働きを受けて生かされているのが私たちです。天の働きなので、人間と違い病気になって休んだり、サボったり、依怙最負したりしません。絶対平等にして全能なのが天という命の実親です。この実親に愛され続けてぜんぶ面倒を見てもらって生きているのが私たちだという事実気づいている人は幸せです。何しろ絶対平等なのですから。

また血はチと読め、智慧の智も当てられます。この智慧が化けて血として循環し、つまり通っておられるのは事実です。そしてこの生命維持活動はみな大自然が司っておられて私たちは受けているだけだとこの字が教えて下さっているのです。

さて、赤血球は皿の形をしています。これがハートの形をしているのが可愛くてこの画像を選びました。



ご覧の通り皿の形をしているのですよね。何で何千年も前に出来た漢字がそれを表しているのですかねえ。不思議ですよええ。

以下は小田野先生の「言語エネルギー現実編」からの抜粋です。

地上生物中で最も至高な生命性能を持つ人類とは言っても、「字」現象の力で始めて人間は「心象の鏡」に出会ったのです。(中略) 七十五音種の組み合わせで、天地万象余すところ無く表現できる「心音」即「発言」の「ことば」の力は実に無比な偉力に違いありませんが、しかしそれが確立していなければ殆ど価値にはなりませんから、誠に「ことば」は「字」あってこそその「無比の偉力」なのです。

(中略)

「字」は人間が工夫したり考え出せる様な生易しい現象ではなくて、逆にいつも「字」に育てられてきたのが人間です。

字を見れば大自然の摂理、法則が分かるようになっていくことに気づいたのが小田野先生ですが、この「字」に着目して「字わけ」をしている人は全世界に数十人しかいないのが

現状です。誠にもったいない気がします。血という字ひとつを取って見ても、びっくり仰天します。ちなみに人間はびっくりすると地面を見ないで天を見上げます。仰天とはそういう意味ですからね。

2012.1.18

菊池 静流